

# 『みんなのねがい』でつながりませんか

『みんなのねがい』編集長  
塚田直也



筆者右端

## 『みんなのねがい』の道を拓く

これまで『みんなのねがい』を購読してくださっているみなさん。初めてこの雑誌を手に入れているみなさん。『みんなのねがい』がいつ、どうして創刊されるようになったのかご存知ですか。『みんなのねがい』は、全国障害者問題研究会（全障研）の機関誌として1970年に創刊されました。創刊号では、「こんなにも差別が」という特集を組み、全国各地でさまざまな障害をもつ人たちが生きるために必要な権利が奪われているという事実を紹介し、「それでいいのか？」と社会に問いかけました。

なぜ、こうした特集をおこなう必要があったのでしょうか。たとえば、当時、障害のある子どもたちは、「就学猶予」や「就学免除」という名のもと、学校に行くことができませんでした。「友だちと遊びたい」「新しいことを学びたい」といったあたりまえのねがいすら実現できませんでした。また、障害のある子どもを育てるお母さ

ん、お父さんは、新学期が始まる時期に咲きほころぶ桜を見るたびに、学校に通うことを許されないわが子の現実を心を痛め、涙を流していました。障害があるという理由だけで、あたりまえに生活していくために必要な権利が社会によって奪われていたのです。

そうした社会を変えていくために、1967年、障害のある人やその家族、障害のある人に関わる人たちなど、さまざまな人が手を取り合い、障害者の権利を守り、発達を保障するために全障研が結成されました。「学校に行きたい」「働きたい」「自由に外出がしたい」など、社会のなかで地道に生き、暮らしている一人ひとりの「ねがい」を結びつけながら、私たちが歩んでいく道を切り拓いていくことが『みんなのねがい』に託された大きな「ねがい」でした。

## 「ねがい」をもつ人がむずかしい時代

ところで、みなさんには、どのような「ねがい」がありますか。また、周囲の人と自己、そして政治をよりよくしていくための行動へとつながっていくはずですが。

今、障害のある人の生活は、『みんなのねがい』が創刊された時代に比べると、豊かになっています。また、障害のある子どもたちが通う場所も整ってきています。こうした現実には、これまでの歴史のなかで、障害のある人やその家族、そうした人を支える人たちなど、一人ひとりの「ねがい」を結びつけ、闘いながら獲得してきた権利です。しかし、「競争」と「管理」が広がる社会のなかで、こうした権利が「強いリーダー」によって徐々に奪われてきています。同時に、一人ひとりのつながりが断ち切れ、ひとりぼっちにさせられる人が増えてきています。

そうした時代だからこそ、人と人とのつながりを大切にしたいと思っています。『みんなのねがい』でつながり、私たちが進むべき道を一緒に悩み、考えていきませんか。効率性や能率性、生産性が声高に主張されるからこそ、じっくりと一人ひとりの「ねがい」を語り合うという「非効率性」なことが大切だと思います。

これからも『みんなのねがい』と一緒に創り上げていきましょう。

分の「ねがい」を語り合うことはできていますか。私は、障害児学校の教員として日々、障害のある子どもたちと関わる現場にいます。最近、学校現場に「競争」と「管理」という二つの価値観がもたらされ、日々、なにかに追い立てられるように生活をしていきます。「できない自分」を叱責され、ある一つの考え方が正しいとされ、それ以外の思いや考えをもつことが許されない雰囲気が漂っています。これは、学校現場だけではありません。社会全体に効率性や能率性、生産性を重視する価値観が形成され、強く、わかりやすい「リーダー」の言葉に従うことが是とされてはいないでしょうか。

こうした状況のなか、障害のある人だけではなく、働きたくても病気などで働くことができない人、効率的に物事を処理することが苦手な人、自分の思いをうまく言葉にすることができない子どもたちなど、弱い立場の人の権利が加速度的に奪われています。また、そうした弱い立場に追いやられると、だれかと手を取り合うことができず、いつの間にかひとりぼっちにさせられている人も増えています。

常にだれかと比較され、自分の思いや考えを自由に、のびのびと抱くことがむずか

しいなかでは、自分の「ねがい」をもつことと自体ができず、ましてや、だれかと語り合うこともできません。私たちは、自分の「ねがい」をもつことがむずかしい時代を生きているのではないのでしょうか。

## 人と人とのつながりを大切にしたい 『みんなのねがい』へ

もし、今、自分がひとりぼっちだと感じている人がいるとしたら、ぜひ、『みんなのねがい』に目を通してほしいと思います。『みんなのねがい』には、障害のある人、その家族、差別と闘いながら生き抜いている人など、さまざまな人の「ねがい」がまつまっています。これまでの歴史が示しているように、苦しい状況を乗り越え、次の道を切り拓いていくためには、一人ひとりの「ねがい」が必要です。だれかの「ねがい」を知ることは、自分の「ねがい」を見つめ直し、今を生き抜くエネルギーを得ることもつながるはずですが。また、だれかとつながり、互いの「ねがい」を語り合うことができていない人は、『みんなのねがい』をまんまかにして、より多くの人とつながり、「ねがい」を語り合っほしいと思います。そうした「ねがい」が結びつくことが、身近な人間関係や職場だけではなく、地域社